

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1275000097		
法人名	有限会社 たすけあい		
事業所名	グループホーム たすけあい		
所在地	〒287-0102千葉県香取市岩部1095-1		
自己評価作成日	平成26年10月31日	評価結果市町村受理日	平成27年2月5日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/12index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ライフサポート楽楽		
所在地	千葉県旭市口1004-17		
訪問調査日	平成26年12月6日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

経営者の敷地内に隣接するグループホームの為自然があり静かな環境の中、ホームでの食事は一年を通し経営者が作っておる食材で新鮮な野菜中心のメニューを提供しております。その他にも年間を通し保存食作りのジャム(イチゴ、ブルーベリー、ゆず)を作ったり、切り干し大根や里芋が採ればずいぶん作ったりと利用者様も農家の方が多い為職員も教えてもらいながら一緒に行っています。作業をしている時の表情は皆さん真剣で生き生きとした表情が伺える一つにもなっています。普段からご家族にも気軽にきて頂けるよう行事や食事会を通し利用者様のホームでの様子を見て頂くと共にご家族との係りを持つ機会も以前より増やし利用者様によっては普段の日も時々屋敷を共にして頂くご家族もお喜びご家族も気軽にこれる環境作りにも取り組み地域の行事や定期的な外食や外出を増やし利用者様のより活性化した生活作りにも取り組みに励んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ご利用者にとって、私たちの訪問は突然の事でもあるにも関わらず、殆どの方の表情は穏やかであった。アクティビティーについても、菜園での野菜作りや、取れたの野菜を使った料理を共に作るといった工夫や苦勞が垣間見られた。また、帰宅願望のある方からの訴えが減っていることから、利用者の方に適切な介護を提供していることがわかる。様々な心身状況や生活背景にもついても個別介護と集団生活のバランスの苦勞を経験されているが、気負うことなく展開されている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	リビングへの掲示をし、勉強会等にて常に周知しながら実践に繋げている	理念の理解についての所内研修も実施され、周知に関する取組はされているが、職員全員での共有には至っていない。	情報共有の手段の一つである記録物の確認等の重要性について理解を深めていただきたい。
所在地	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	施設内の行事、地域行事への参加や定期的なボランティアの訪問、日用品の買い物や散髪等地域のお店を利用しながら交流に繋げている	経営者が敷地内に自宅を有しているため、地域との交流は、日常的に行われていると考える。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	定期的にホームの季刊誌を配布したり野菜等近隣施設へ提供したり地域のボランティアや地域行事への参加等を通し交流を図っている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	昨年度から家族会、施設行事への参加を通し堅苦しい会議の形式だけではなくより家族が訪問しやすい環境を作ることに取り組みサービス向上に繋げている	会議への家族参加率を上げる為の工夫を行っている。現時点では会議中の意見や要望等は出されていないが、会議以外での個別の苦情・相談については、業務に反映されている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議や行事への参加を通し協力関係を築いている	運営推進会議に行政の参加も見られている。現在既存及び新規事業について、市町村担当者と連携をとっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設内の勉強会や外部研修への参加を通し職員の意識を高め拘束しないケアに取り組んでいる	社外研修及び所内研修の実施を確認。また、居室には簡単な鍵が設置されているが、中からも開けられる仕組みになっている。玄関の施錠は日中は行われていなかった。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内の勉強会や外部研修への参加、日々のカンファレンスを通し防止に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設内の勉強会や外部研修への参加を通し理解に繋げている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時や改定等の説明はその都度行い理解を図っている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や行事への参加、面会時には積極的に家族と係る事で信頼関係を築けるよう取り組んでいる	事業所新聞を発行するなど、日常の活動が外部発信されている。家族が利用者あひの好物を差し入れるなどの姿も見られた。しかし、申し送りノート等の回覧に未読者があった。	ケア方針やケア内容の変更、または継続に関する情報周知について、全職員で周知されていることが確認できなかった。周知に関する仕組みを更に活用していただきたい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のカンファレンスや日々のやり取りの中で話し合い意見を反映させている	個人目標シートを活用し個人との面談を行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年間予定の内部研修や個々に積極的な外部研修の参加を進め研修参加状況や自己評価表の実践を通し努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修や外部研修への積極的な参加を進め評価に繋げている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の定期的な会議や研修への参加、地域の交流会等への参加を通し取り組んでいる		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	常に話を聞きコミュニケーションを図ることで関係作りに取り組んでいる		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	常に話を聞き不安、要望に応じて行ける様信頼関係を作れるよう取り組んでいる		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	よく話を聞き必要な支援を見極め対応している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	個々それぞれの話を聞くことで信頼関係を築いている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時も積極的に家族と係る事で信頼関係を作り定期的な状況報告を行い関係性を築いている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人の家族、知人親戚等来て頂ける環境を作り地域行事や地域ボランティアの交流を通し支援に努めている	入所を期に今までのコミュニティーが途切れてしまうのは、事業所の努力のみでは困難であるにも関わらず家族はもとより、友人の面会がある。また、居室に馴染みの物を持ち込んでいる居室もあった。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	常に寄り添う姿勢を持つことで利用者様同士の関係を職員が係りを持つことで関係性を作っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	その後の近況報告や情報のやり取りを通し必要に応じ相談や支援に努めている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	よく話を聞きく事でコミュニケーションを図り不安や要望等くみ取れるようにしている	入所前に家庭訪問をして、本人・家族に面接し、家族等から得られた情報を大事にすることはもとより、本人の気持ちをくみ寄り添って支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族やご本人からの話を聞き事で安心できる環境作りに取り組んでいる		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご本人の状況を把握しご本人のペースに合わせながら対応している		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人や家族の要望等カンファレンスにて話し合い介護計画に繋げている	本人や本人をよく知る家族・関係者を交えて話し合いを行い、地域で暮らしていくための支援を考えながら、それぞれの意向をくみ取り介護計画に反映している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送りや日々のやり取りの中で情報の共有化を図っている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人、家族や職員とのやり取りの中その時々状況にて対応している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域医療への受診や地域行事への参加外出支援ボランティアとの係りや知人との外出等を通し支援している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的な通院や必要に応じ通院できない方への往診や相談を通し関係を築き支援している	協力医は介護保険にも精通しており、保険者・事業所との医療連携も図れ、通院が不可能な利用者には往診が行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	定期的な看護職員の配置にて支援をしている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	常に家族との連絡や定期的な面会にて医療機関との情報共有を図り支援に繋げている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族との連絡を密にし今後の方向性を話し合い支援に繋げている	入所時に終末期の意向を家族から把握している。家族や医師の署名入りの書面を作成、終末期に対する共通理解を図り、終末期の看取を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的なべんきゅ会や緊急マニュアルを掲示し対応している		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な訓練を実施し職員の意識付けも行いながら体制を築いている	系列の施設との協力関係が構築されており、消防法に則った訓練と、自主訓練を行い、夜間を想定した訓練も行っている。今後は、非常ベルを設置の方向で検討を行なっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々それぞれに対応した言葉掛けをいしきしながら対応している	職員の言葉かけについてはプライバシーに配慮するように年間計画でも位置付け、日常的にも注意をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	常に話をきく事でご本人の気持ちを汲み取れるよう取り組んでいる		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人のペースに合わせながら強制せずにご本人のペースに合わせて頂くよう支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の要望を汲み取りながら支援している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々それぞれのできる事を模索し工夫しながら取り組んでいる	明るめの絵付けの食器を使用して、目先の楽しみも加味され、施設から見えている菜園で採れた食材も調理されて、職員と一緒に食事を楽しんでいる姿が見られた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々それぞれの状況に合わせてながら支援している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを勧め状況に応じては訪問歯科を取り入れながら支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々それぞれに合わせながら排泄パターンを把握しご本人の無理のない体制を作っている	布パンツで過ごされている入所者が4名おり、職員が個々の排泄パターンを把握し、排泄誘導を上手に行っていることが伺える。トイレの場所のわからない人には声掛けを行い見守りしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々それぞれの排泄パターンを把握し水分調節や必要に応じ排便を促す対応を施行し日々対応している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	その時のご本人の状況に応じ対応している	曜日を決めて週3回程度入浴している。立位の難しい人には、職員が二人対応で介助し、個々の状態に応じてシャワーチェアやシャワーキャリーを使用し、安全を図っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人の状況を把握しその都度安心して入眠できるよう支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	常に服用している薬を把握し看護師との相談をしながら主治医との連携を図り支援に努めている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々それぞれの役割を作り生活の中での張り合いを作って行けるよう工夫しながら取り組んでいる		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	その時の状況やご本人の様子にて対応に努めている	職員の勤務調整を図り、家族とも相談しながら近所の散歩や馴染みの店や場所、お墓参りにも車や車いす対応で出向いている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個々それぞれのお小遣いを預かりご本人の要望に応じ対応している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	その時々状況に応じ対応している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を取り入れながら利用者様同士が居心地の良い空間を提供できるよう模索しながら取り組んでいる	共用リビングは明るく、騒音もない静かな落ち着いた環境にある。席替えをこまめに行い、穏やかに過ごせるような配慮がなされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	空間の工夫をし利用者様の状況に応じ配置を変えたりしながら良い空間作りに取り組んでいる		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人のなじみの物を置いたり試行錯誤しながら安心できる空間作りに取り組んでいる	本人の使い慣れた馴染みのものを傍らに置いて安心して過ごせるようにしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの場所や部屋へは掲示をしたり声掛けすることで習慣になってもらいながら自立した生活を送れるよう支援している		